

わだち

LOGISTEED
Public Relations Magazine
October 2026 vol.467

2026 秋 号

特集

ロジスティードソリューションズの挑戦
ITやAIの力と人の力を
融合し物流の未来を拓く

達人ノ音

パレネット(株)・クリケット男子日本代表

谷山 誠

ロジスティード陸上部選手たちの

ONとOFF

番外編 陸上部を支えるスタッフたち

平野 進



ロジスティードソリューションズの挑戦 ITやAIの力と人の力を融合し 物流の未来を拓く

1973年に設立し
物流IT一筋で物流現場に最適なシステム構築や
生産性と品質の向上に取り組んできたロジスティードソリューションズ(株)
「やれないこと、やってやろう。」をスローガンに掲げ
近年は自律移動型協働ロボットである
「AutonMate(オートンメート)」を展開するなど
ロボティクスとAIの融合にも挑戦し物流の未来を切り拓いている

Contents

03 特集

ロジスティードソリューションズの
挑戦
ITやAIの力と
人の力を融合し
物流の未来を拓く

10 時短レシピ

焼き芋・蒸し芋とプリンで簡単
スイートポテト

11 達人ノ音

パレネット(株)・クリケット男子日本代表
谷山 誠

14 ロジスティード陸上部選手たちのONとOFF 番外編 陸上部を支えるスタッフたち

平野 進

18 Topics

19 編集後記

わだち 秋

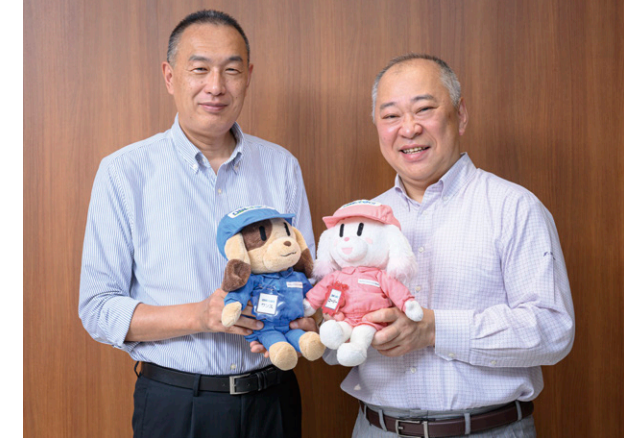
ロジスティード広報誌
わだち 2026秋号
2026年10月1日発行
編集発行人 金田 陽子
発行所 ロジスティード 株式会社
〒104-8350 東京都中央区京橋2-9-2
Tel.03-6263-2803
印刷所 株式会社 日立ドキュメントソリューションズ

表紙

永代橋(東京都江東区)

お問い合わせや感想はこちらまで
わだち編集事務局:
wadachi@logisteed.com

*「わだち」の無断転載はご遠慮ください。
*本誌内においては会社名の敬称を略しておりますので
何卒ご了承ください。



スーパーで生鮮品を買い、大型モーターでショッピングを楽しむ。病院や薬局に行けば当たり前のように医薬品が揃い、インターネットでの買い物も日常となった。

こうした便利で安心な暮らしを支えているのが物流システムだ。日々、膨大な情報が処理され、さまざまなモノが社会の中で動いている。

そして、この巨大な物流インフラを支える仕組みを最新のデジタル技術やAIを取り入れて構築しているのが、ロジスティードグループの中核IT企業、ロジスティードソリューションズ(株)(以下LDS)だ。

社会インフラを支える「当たり前」のシステム

LDSは1973年の設立以来、物流IT一筋に歩み続け、ロジスティードの3PL事業拡大とともに成長してきた。グループが持つグローバルな現場力と物流ノウハウを融合し、生産性の向上と物流品質の改善を高いレベルで両立するソリューションを提供している。

中で築き上げてきました。日々のプレッシャーを乗り切る原動力は、営業やシステムエンジニアが一体となった従業員のチームワークです」

グループの現場で鍛えられた本物の力

LDSでは2008年から物流のITソリューションを包括した「ONESLOGI(ワンスロジ)」の販売を推進してきた。これは「One Stop Logistics IT Solution」の略で「倉庫管理業務」「可視化・分析システム」「輸配送業務」「輸出入業務」「物流容器管理業務」など、物流全体に関わるさまざまな業務や課題に合わせたソリューションをワンストップで取り揃え、お客様に提案するものだ。

このONESLOGIが持つ強みについてLDS執行役員CMO営業開発本部長の戸波博さんはこう語る。

「LDSのシステム開発における最大の強みは、ロジスティードグループの3PLの現場がすぐ近くにあり、そこで一度徹底的に鍛えられることです。シス

その核となるのが、物流センサー管理システム(WMS)と輸配送管理システム(TMS)だ。

現在、LDSが開発するシステムを導入する企業は、グループ以外にも大きく広がり、約730社にのぼる。製造業、卸売・小売業、物流業など、その業種は多種多様だ。

LDS執行役員ロジスティクス統括本部長兼アドバンストテクノロジ事業本部長の吉田佑一郎さんは、業務の重要性についてこう語る。

「3PLの物流倉庫では、たとえばお客様の商品に値札をつけることまで請け負います。弊社はその複雑な管理を行うシステム構築と運用を担っています。万が一、システムエラーが起きたりすると、倉庫機能そのものが止まり、お客様の店舗への出荷業務や販売活動がストップして、暮らしを支えるインフラが止まることになります」

「システムは動いていて当たり前のもので。その『当たり前』のシステム構築を、LDSは50年以上になる会社の歴史の

テム開発時にはまず担当エンジニアが業務フローを理解し、運用全体のノウハウを学びます。グループ内だからこそ、本音で厳しいことも言われます。そうやって鍛え上げられて構築したシステムには汎用性が生まれ、グループ以外の企業に提案する際、お客様から寄せられるご要望にもすぐに対応でき、生じる課題はすでに解決済みということが多いのです。現場で学ぶことから生まれる、お客様の業務への理解力の高さが強みです」

吉田さんも「3PLで業界をリードするロジスティードグループのノウハウが詰まったシステムということで、お客様からの信頼度は高いです。その信頼に応え続けるためにも常に現場の生の声を大切にし、次の開発につなげています」と話す。

仲間となるロボットを3社で共同開発

近年、物流の現場では働き手不足が顕著となり、賃金の上昇もコスト面での課題となっている。一方、省人化のため、倉庫内作業をロボットなどで自動化

ロジスティード東日本(株)首都圏東物流センターで稼働するAutonMate。AutonMateの特徴の一つは、倉庫床面に磁気テープや二次元コードなどのガイドを設置しなくても、事前に設定された倉庫内マップによってルート进行を判断し、人や障害物を避けながら自由に走行できることだ。AutonMate導入によって作業員がこの倉庫内で台車を押して歩かなくてすむようになり、身体的負担は大きく軽減した。

*3PL:Third Party Logistics=サード パーティ ロジスティクスの略。荷主企業が、総合物流業の第三者(サード パーティ)に物流業務全体もしくは一部分を委託するアウトソーシングのこと。コントラクト ロジスティクス(Contract Logistics)とも呼ばれる。



ロジスティードソリューションズ(株)執行役員
ロジスティクス統括本部長 兼 アドバンストテクノロジ事業本部長
吉田 佑一郎
よしだ ゆういちろう●1993年入社。ロジスティクスITに関わるさまざまな部署を経験し、2008年から3年間、中国・上海の現地法人にて駐在。



ロジスティードソリューションズ(株)執行役員 CMO 営業開発本部長
戸波 博
とнами ひろし●2024年入社。以前は(株)日立製作所で長年勤務し、ロジスティードが3PL事業を本格的に取り組み始めた頃から仕事上の関係ができた。3PLのおもしろさを感じ、LDSへ転職。



ロジスティードソリューションズの
エンジニアは
まず現場の業務フローや
ノウハウを学び、理解します

する自動倉庫の建設には大きな投資が必要になったり、倉庫そのものの建て替えが必要になったりもする。

LDSはこうした課題を解決するため、既存設備に導入可能な自律移動型協働ロボット（AMR）の開発に乗り出し、2024年9月にデビューさせたのが「AutonMate（オートンメイト）」だ。これは人との協働で商品のピッキングをアシストするロボットで、磁気テープなど床面のガイドなしで自ら判断して走行し、人や障害物を自動的に回避する。

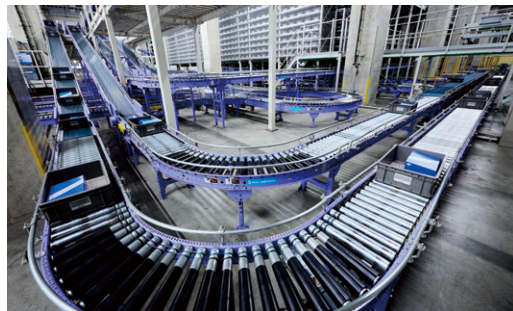
開発はLDS、ソニーセミコンダクタソリューションズ（株）、武蔵精密工業（株）の3社による共同開発で進められた。それぞれが得意分野を活かし、LDSが業務アプリ、ソニーセミコンダクタソリューションズが制御ソフト、武蔵精密工業がハードウェアを担当した。

AutonMateの販売推進者であるLDS営業開発本部カスタマーリレーション推進部部长兼SCM推進グループ課長の中新浩志さんは、開発に際して力を

入れたことをこう話す。

「人と全く同じエリアで動き回るため、危険検知時の緊急停止や防火シャッターを遮らない位置での停止など、安全設計を徹底しました。また、倉庫の現場はレイアウト変更がよく発生します。一般的にAMRはマップの書き換えのたびにベンダーへの費用と時間が発生しますが、AutonMateは現場のユーザーが自らマップを変更できる仕様になっています。コストの削減にもこだわり、省人化などが生み出す投資対効果の面では、目安として3～5年で投資回収できるように設計しています」

そして、開発時に掲げた「導



首都圏東物流センターの出荷レーン。ピッキングされたシューズはここを通り梱包後、出荷される。

入して終わりじゃない、導入してからが楽しい、現場を支える頼もしい仲間」というコンセプトを大切にしたい。ただのロボットではなく、現場と一緒に働く「Mate（メイト＝仲間）」として愛着を持ってもらえるような存在をめざしたのだ。

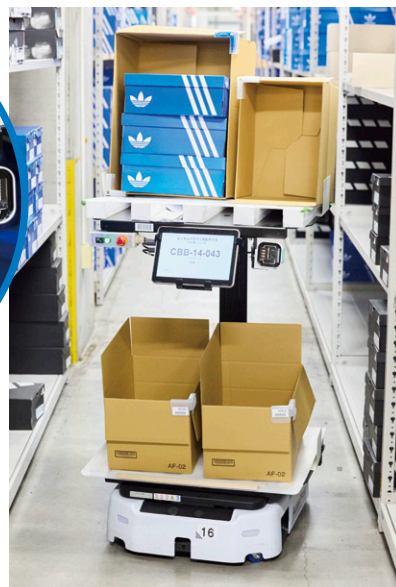
2025年度はグループ6カ所の物流センターなどに103台のAutonMateが導入され、2026年度はグループ内外の企

業で約160台が導入予定となっている。

人の歩行時間が7割減 AutonMateの導入実績

このうち、2026年2月に16台を導入したのが千葉県野田市にあるロジスティード東日本（株）首都圏東物流センターだ。

ここでは長年、アディダスジャパン（株）のシューズやアパレルの物流業務を、ロジスティー



AutonMateに取り付けられているタブレット端末（左上写真）。端末は、作業内容に合わせて画面上のボタンの位置や大きさを自由に設定できる。また、ここでは梱包箱からのシューズ落下防止や作業性向上のため荷台上段は奥に下がる傾斜、下段は手前に下がる傾斜をつけた。

ド東日本が一手に引き受けている。AutonMateを導入したのはシューズの出荷を担う倉庫だ。従来、ここでは従業員やパートの作業員が紙のピッキングリストを持ち、自分で台車を押して広大な棚の間を歩き回っていた。現場を担当するロジスティード東日本 柏営業部 野田営業所 副所長の鈴木 宏治さんは現在の作業についてこう説明する。「現在にはピッキングする作業員1人に対し、AutonMateが3台という割合で稼働しています。作業が始まると、複数のAutonMateが入荷指示に従って最短経路を判断し、ピッキング対象の棚の前に先回りして作業員を待ち構えます。作業員は何も持たずに棚へ向かい、待っているAutonMateのタブレット指示に従ってシューズの箱をピッキングし、

開発コンセプトは「現場を支える頼もしい仲間」



AutonMateの導入でピッキングの生産性は従来の約2倍に向上。倉庫内作業の省人化も実現した。



ロジスティードソリューションズ（株）営業開発本部 カスタマーリレーション推進部部长兼 SCM推進グループ課長

中新 浩志

なかにい こうし ●2004年入社。大学では電子情報工学を学び、エンジニア志望で入社後、営業などをメインに担当してきた。現在はAutonMateの販売推進者を務める。「物流業界の可能性を広げる、新しいソリューションを売っていきます」

検品スキャンをして梱包箱に入るだけ。作業が終わると、ロボットは次のロケーションへ、作業員も別のロボットが待つ最も近い作業場所へと移動します。ロボットが人の代わりに重い荷物を運び、歩行を肩代わりしてくれる」

この「人とロボットの協働」による導入効果は、具体的なデータとなって現れている。ピッキングの人員は導入前の10名から6名へと削減され、作業員の歩行時間は従来の7割削減となった。これにより、1日あたりのピッキング生産性は従来の約2倍に向上し、作業員の体への負担も大幅に軽減された。



AutonMateは3時間の充電で8時間稼働する（高速充電オプションをつけた場合は1時間で充電可能）。最大積載重量は45キログラム（上段20キログラム、下段25キログラム）。もし、途中でバッテリー切れが起きても、手押しで充電ステーションまで簡単に運べる。



富岡八幡宮

寛永4年(1627年)に創建され、「深川の八幡様」として信仰を集めてきた富岡八幡宮。2027年の御鎮座400年を前に、現在は御本殿の大修理を施している(上の写真はその修理期間中の仮本殿)。富岡八幡宮の例大祭「深川八幡祭り」は江戸三大祭りの一つで、町を練り歩く神輿に沿道から清めの水を浴びせるため「水かけ祭り」とも呼ばれる。2026年は3年に一度の本祭りにあたり、各町の神輿54基が練り歩く連合渡御が行われた。

⑨東京都江東区富岡1-20-3



東京都現代美術館

木場公園の一角に建つ東京都現代美術館は、1995年に開館した日本最大級の現代美術館の一つ。約6100点の収蔵作品、約28万点を数える美術関連図書資料に基づき、絵画、彫刻、ファッション、建築、デザインなど、幅広く現代美術に関する展覧会を開催している。2019年に大規模なリニューアルを行い、エントランスホールや中庭、水と石のプロムナードなど、作品を鑑賞するだけでなく、建築や空間そのものを楽しめる、さらに開かれた美術館となった。

⑨東京都江東区三好4-1-1(木場公園内)



清澄庭園・涼亭

清澄庭園は、大泉水、築山、枯山水を巧みに配した「回遊式林泉庭園」。明治期に岩崎 彌太郎がこの地を取得し、隅田川の水を引いた大泉水や築山、全国から取り寄せた名石を配して整備した。園内でひととき目を引くのが、大泉水に突き出るように建つ「涼亭」だ。数寄屋造りのこの建物は、明治42年(1909年)、国賓として来日した英国のキッチナー元帥を迎えるために岩崎家が建てた。大泉水の周りを歩けば四季折々の風情が楽しめる。

⑨東京都江東区清澄3-3-9



東京メトロ東陽町駅交差点。2024年10月までロジスティードソリューションズ(株)本社が置かれていた東陽MKビルの最寄り駅だ。周辺には、江戸時代から伝わるアサリとネギを使った郷土料理の深川井・深川めしを味わえる店や「半ちゃんラーメン あかしや」、餃子が名物の「好好」、24時間年中無休のデニッシュパンの店「モン・シェール アヴニール」など、多くの名店が点在している。

「やれないこと、やってやろう。」の精神

また鈴木さんは、現場で微調整できることがAutonMateの強みだという。「実際の導入後、梱包箱の落下防止と作業性向上のため、AutonMateの棚に傾斜をつけた。また、通路を横断する際の作業員との接触を防ぐため、自動減速するようLDSのエンジニアにプログラミングしてもらいました」

LDSでは2023年から「やれないこと、やってやろう。」のスローガンを掲げている。これには「誰かが無理だと言ったこと」「自分たちにしかできないこと」「前例のないこと」をやってやろう、という思いが込められている。

営業開発本部を率いる戸波さ



ロジスティード東日本(株)柏営業部 野田営業所 副所長

鈴木 宏治

すずき こうじ●2011年入社。CS係として顧客窓口を主に担当し、2023年より現職。



鈴木さんによるピッキングの様子。「AutonMateに『こっちを向いて』と言ったら向きを変えてくれるとか、声による指示やコミュニケーションができるようになる」と便利ですね」と現場ならではの感想も聞かせてくれた。

んはこれに「余計なこと、やってやろう。」というサブタイトル的なスローガンを部内で加えて掲げている。お客様と向き合い、期待されている以上のことをこちらから提案し、お客様とともに物流の未来を切り拓いていこうという思いだ。

お客様との関係、人が持つ力については吉田さんも「AIや

ロボティクスは今後も進化し、現場を変えていきます。ただ、どれだけ技術が進んでも新しい物流の構想を考え、お客様と一緒に創り出していくことは、人にしかできません。またAutonMateの共同開発のような、企業の枠を越えて得意分野をつなぐことも私たちの役目です」と語った。

ロジスティードソリューションズ(株) 江東事業所 ロジスティードグループのIT基盤の企画・構築や業務を支援

ロジスティードソリューションズ(株)の江東事業所がある場所は、2024年10月までロジスティードソリューションズの本社だった場所だ(本社は東京都中央区京橋のロジスティードビルへ移転)。ここでは今、エンタープライズデジタル基盤統括本部のICTソリューション部とBPO推進部が業務を行っている。ICTソリューション部ではロジスティードグループのIT基盤の企画・構築やサイバーセキュリティ対策を担い、BPO推進部はグループ各社の業務処理支援などを担当している。

とくにBPO推進部が担う業務処理支援は幅広く、グループ各部門から依頼を受け、見積書、請求書などの作成支援や

業務の実績集計、輸出入関連ドキュメントの内容チェックなどを行う。

またシステムに関するヘルプデスク業務も担当しており、社用のパソコンソフトやスマートフォンのトラブルなどにも対応

する。その受付窓口ではAIも活用しているが、IT機器やシステム稼働の監視業務は365日24時間体制で、有人で対応している。



エンタープライズデジタル基盤統括本部 経営プラットフォーム事業本部 BPO推進部のみなさん。部長の田中 裕樹さん(前列左から3人目)、プロジェクトマネージャの川浪 慶彦さん(前列左から2人目)

DATA	
住所	東京都江東区東陽7-2-14 東陽MKビル 9F
電話	03-6263-2844
従業員数	約90名

世界的に見れば、サッカーに次ぐ競技人口を誇るスポーツがクリケット。13世紀にイギリスで発祥した長い歴史を持ち、「野球の原型」ともいわれる球技だ。2028年ロサンゼルス・スポーツの祭典では128年ぶりに正式種目として復活し、これからますます注目度が高まること予想される。日本ではまだ知名度が低い、日本代表チームは着実に力をつけている。10代の頃から代表選手の一人として活躍を続け、現在はパレネット(株)で働きながら競技に取り組む谷山 誠さんにクリケットの魅力や見どころを聞いた。

谷山 誠さん

世界的に盛り上がるクリケット
そのおもしろさを日本でも



ロジスティックグループ保養所
サン・アンド・サン荘 伊豆高原
料理人が教える

時短
レシピ
vol. 3

ティータイムに

焼き芋・蒸し芋とプリンで簡単 スイートポテト

秋の風物詩の代表格、さつま芋。料理だけでなく蒸したり焼いたりするだけでおやつにもなる便利食材です。蒸し芋も焼き芋もそのまま食べてもおいしいですがプリンとバターを混ぜて焼くだけで、まろやかさや香りがグレードアップ。簡単レシピを紹介します！

材料

- 焼き芋または蒸し芋
約300g (中1本程度)
- プッチン系プリン 1個
- バター 15g
- 卵黄 1個

作り方

- ① さつま芋の皮をむいてつぶす
※蒸し芋の皮はやわらかいのでむかなくても構わないが焼き芋の場合は硬くなった焦げていたりするので必ずむく
- ② ボウルに①とプリン、常温に置いてやわらかくしたバターを入れてよく混ぜ合わせる
- ③ ②を食べやすい大きさに丸める
あるいはスプーンなどですくってアルミ製の耐熱性カップに入れる
- ④ 卵黄を溶いてハケで③の表面に軽く塗る
※卵黄を塗った方が焼き色がきれいに仕上がるが塗らずに焼いてもOK
- ⑤ ④を250℃に設定したオーブンまたはオーブントースターに入れて好みの焼き色がつくまで10分～15分ほど焼く



今 紹介するのは、焼き芋や蒸し芋など加熱したさつま芋にプリンとバターを混ぜて焼くだけという簡単レシピですが、「どこで買ったの？」と聞かれそうな極上の仕上がりになるスイートポテトです。

さつま芋は、電子レンジを使っても30分くらい加熱しないと火が通らないので、加熱済みの焼き芋や蒸し芋を使うのがおすすめです。さつま芋は品種によって、例えば、ホクホク食感なら紅あずま、滑らか食感ならシルクスイート、ねっとり食感なら安納芋といった違いがあります。また、さつま芋の潰し加減もお好み次第。粗めに潰す、あるいは潰して滑らかにしたもの、に、さいの目に切ったものを混ぜるなどアレンジ自在。簡単ですが工夫次第でさまざまな味わいや食

感を楽しむこともできます。

プッチン系プリンを使うのは、ゼラチンや寒天、卵など固める役目をする材料があらかじめ入っているからです。また、砂糖を加える手間もかかりませんし、カラメル風味が香ばしさやコクを演出してくれるのです。

このレシピでは、さつま芋もプリンも火が入っているので焼かなくても芋きんとんとして食べることもできますが、焼くことでホクホク感と香ばしさが増します。きれいな焼き目をつけるために卵黄を使っていますが、余った卵白は、砂糖を加えて泡立てて焼けばメレンゲクッキーになります。また、ふわふわのオムレツを作ることもできるので、捨てずにインターネットなどでレシピを調べて、ぜひもう一品作ってみてください。



サン・アンド・サン荘 伊豆高原
〒413-0234 静岡県伊東市池893-76
☎0557-55-2001

町なかにクリケットの バッティングセンター

クリケットは「野球の原型」とされるイギリス発祥のスポーツだ。世界全体の競技人口はサッカーに次ぐ約3億名といわれ、10億名以上のファンがいる。トップクラスになると年俸30億円超のプレーヤーがいたり、インドではショッピングモールや繁華街にクリケットのバッティングセンターがあったりする。星 飛雄馬が活躍する「巨人の星」を、クリケットの設定に置き換えたリメイクアニメも海外で制作されている。

「クリケットはイギリスから広まったため、旧植民地だった国々、インドやオーストラリア、ニュージーランド、スリランカ、南アフリカなどで盛んです。そういった国に行くと、日本の公園に野球場が併設されているような感覚でクリケットの競技場があります。東京ドーム規模のクリケットスタジアムもたくさんありますよ」

こう語るのは、パレネット(株)に勤務するクリケット男子日本代表の谷山 誠さんだ。

谷山さんがクリケットを始めた

のは中学1年生の時だ。もともと野球が好きで中学からは硬式野球をしたいと考えていたが、進学した中高一貫校にはソフトボール部しかなかった。

「その学校にはクリケット部があったのです。先に入部していた同級生に誘われてやってみることにしました。投げて、打って、走る。そして守備もする。野球と共通するプレーが多く、使用されるボールも野球の硬式球とほぼ同じで、むしろクリケットのボールのほうが硬めです。それで興味を持ちました」

その後、谷山さんはすぐに頭角を現すようになり、中学2年の時にはU15の日本代表、中学3年の時にはU19代表、そして男子日本代表に選出された。30歳となった現在も代表選手であり、野球でいう三振に近い形で打者をアウトにする「ウィケット獲得」の日本最多記録保持者だ。

「クリケットでは投手のことをボーラーといいます。バッターの後ろに立っている3本の棒と横木をウィケットといい、投げたボールをウィケットに当てて倒せればアウトになります。基本的には

「佐野ブルズ・クリケットクラブ」に所属し、週末に行われる試合に出場するほか、年に数回、日本代表チームの一員として海外での国際大会で活躍している。

「本社は横浜市にあり、入社当時は私も近郊の藤沢市に住んでいたのですが、通勤に問題はありませんでした。週末ごとに佐野市に通っていたため、時間的、体力的に大変になりました。そこで上司に相談し、佐野市に移住し、佐野市近隣のお客様を担当とする営業として働くことを認めていただきました。会社には本当に感謝していま



所属する「佐野ブルズ・クリケットクラブ」の本拠地である佐野市国際クリケット場でプレーをする谷山さん。佐野市はクリケットを活用したまちづくりに取り組んでおり、このクリケット場は国内で初めて国際規格に合わせて設計された天然芝のクリケット専用球場だ。ワールドカップ予選などの国際大会も開催される。



クリケットで使われる道具。ボールとバット(右写真)、そして3本の棒(スタンプ)とその上に乗せる横木(ペール)をセットでウィケットという(上写真)。

バッターの前でワンバウンドする球を投げるのですが、私が得意とするのはレッグスピンという変化球です。右腕で投げてバウンド後、左に曲がっていく球種です。振られたバットをすり抜けてウィケットを倒すことができると最高の気分になります」

営業の仕事と クリケットとの共通点

谷山さんは今、栃木県佐野市を拠点とするクリケットチーム

す」

そして谷山さんはその営業の仕事と、クリケットの共通点も感じているという。

「営業もクリケットも一人ではできません。営業の仕事ではチームのそれぞれが集めてきたお客様のニーズや情報を共有し、次のアプローチにつながります。クリケットもチームワークのスポーツです。クリケットをやってきたことが仕事に活かしていると感じます」

まずは試合の観戦を！ その迫力に驚くはず

クリケットは2028年ロサンゼルスで開催されるスポーツの祭典で正式種目となる。1900年のパリ大会以来の128年ぶりの復活で注目されている。

「ロサンゼルスのは次は2032年にオーストラリアで開催です。クリケットが盛んな国なので、継続して正式種目になる可能性が高いと思います。日本代表はチームワークの良さが持ち味です。世界には強豪国がたくさんありますが、ロサンゼルス大会への出場をめざ



佐野市国際クリケット場の最寄り駅である東武佐野線・田沼駅にはクリケットの紹介パネルなどが設置されている。

していきます」と谷山さんは闘志を見せる。

日本ではまだ認知度が低いクリケットだが、まずは試合を実際に見てほしいと語る。

「試合を間近で見ると、ボールのスピード感やそれを打ち返す打球音の迫力に驚かれるはずです。野球とは違い、360度どこに打ってもいいプレーのおもしろさも感じてほしいです。試合の開催情報は日本クリケット協会のホームページやSNSで見られます」

●日本クリケット協会
公式HP



たにやま まこと●1996年生まれ、大阪府東大阪市出身。上宮中学校(現・上宮学園中学校)でクリケットと出会い、中学2年で日本代表(U15)に初選出。以後、U19代表を経て、中学3年で男子日本代表入りを果たす。上宮高校卒業後は帝京大学に進学し、大学卒業後はオーストラリアに短期留学。現在はパレネット(株)に勤務する傍ら、日本代表として活躍し、国際大会における日本歴代最多ウィケット獲得記録を持つ。得意球はレッグスピン。栃木県佐野市を拠点とするクリケットチーム「佐野ブルズ・クリケットクラブ」に所属し、副キャプテンも務める。2022年勤務先の理解、協力のもと佐野市へ移住した。趣味は野球観戦で、阪神タイガースのファン。

クリケットは1チーム11名で対戦する。攻撃側と守備側に分かれ、円形のフィールドの中央にあたるピッチで攻防を繰り広げる。ボーラー(投手)が投げたボールをバッターが打ち、ラン(得点)を競い合う。試合にはさまざまなスタイルがあり、5日間かけて行う伝統的なスタイルもあるが、現在は3時間ほどで終了する「T20」というスタイルが主流となっている。



2 024年4月 ロジスティード陸上部のスカウト担当コーチとして就任した平野 進さん。実はその前の14年間は陸上の世界から遠ざかっていた。

「24年1月に別府監督から連絡をいただき、『チームの強化のために』とスカウト担当としてのお誘いを受けました。依頼を受けた時、私は陸上から離れて長い年月が経っていたので、陸上

に関してはまさに『浦島太郎』状態です。最初は『足を引っ張ることになってしまう』と伝えたのですが、就業の条件などを丁寧に整えてくださり、最終的に就任を決めました」と平野さんは話す。

それから2年。2026年4月には平野さんが別府監督らに提案し、了承されてスカウトをした3名のルーキーがロジスティード陸上部に加入した。

また2026年元旦のニューイヤー駅伝優勝は、自身の陸上人生の中でも最高の出来事だった。

実業団チームで監督などを経験

平野さんは千葉県君津市出身。中学時代は軟式テニスで県大会ベスト16に入ったことがある。一方で、小・中学時代には校内マラソンで速かったことから市内の駅伝大会に寄せ集めのチームで出場し、優勝したこともあった。中学3年の時にはその駅伝大会で最優秀選手賞を受賞した。

陸上部に所属したのは高校か

らだ。1500メートルなどで

関東大会に出場し、大学は中央学院大学に陸上部強化選手として入学。関東インカレでの入賞実績などから卒業後の1993年、空港グランドサービス(株)(現・JALグランドサービス)に入社し、陸上部に所属した。1997年にはニューイヤー駅伝初出場も果たした。

「30歳となった2000年から監督など指導役になりました。ニューイヤー駅伝でのチームの最高順位は11位です。リーマンショック後の親会社の経営破綻の影響で、2010年に陸上部は、残念ながら廃部になりました。私は会社に残り、社業に専念していました」

そして2024年に突然、別府監督から連絡があり「一度会って、話ができないか」と言われたという。

2000年代にできた別府監督とのつながり

「もともと別府監督とは、2000年代に監督が日本体育大学陸上競技部駅伝監督をされていた時に会いました。私は

「スカウトで重視することはその選手の人間性と陸上競技を続ける覚悟です」

ロジスティード陸上部のスカウト担当コーチを務める平野 進さん
就任したのは2024年だ
その前には陸上の世界を離れて14年のブランクがあった
別府 健至監督との出会い、そしてスカウトにかかる思いを聞いた

番外編

陸上部を支えるスタッフたち

ロジスティード陸上部
選手たちの



vol.11

平野進

スカウト担当
コーチ

選手たちの情報は 実際に見て集めます

JALグランドサービス陸上部の監督時代、スカウトのための選手探しで伺いました。まだ経験も浅く、チームとしての実績も挙げられていない私に別府監督は丁寧にご教示いただき、情報もいろいろ教えていただきました。そして当時、日本体育大学陸上競技部駅伝主務をしていた能條さんを紹介していただき、JALグランドサービスに招きました。その能條さんは

現在、ロジスティード陸上部でヘッドコーチとして、別府監督の右腕となり、活躍しています」
20年以上前にできたつながりから声が掛かり、ロジスティード陸上部のスカウト担当になった平野さんだが、就任の初年は苦労した。

「大学の選手たちの情報をほとんど持っていないところからスタートでした。選手たちの記録を見て、チェックして、陸上の大会に行き、実際の走りを見て確認をする。高校時代の記録も確認します。そしてそれぞれの大学の監督にあいさつをして話を聞きます。今はインターネットで発信される情報も多いのでそれも見ます。陸上の専門誌なども情報源にして、選手たちのことを知っていきました」
就任2年目になる頃に

は、かつての感覚を取り戻してきた平野さんだが、別府監督が持つ情報量や人的ネットワークの広さや深さには改めて驚かされたという。

「私が大会の成績や実際の走り、人間性も見て、いいと判断した選手を監督に報告をすると、監督は当然のようにその選手を知っています。私以上に情報を持っていますし、新しい情報が知りたいとなるとすぐにご自身のネットワークで電話をしたりして確認されています」
今は就任3年目となり、ちょうど大学1年の入学時から見てきた選手たちがスカウト対象となる3年生となった。

「いろいろな選手を見続けてきて、情報も増えました。スカウトの際に重視することは、タイムはもちろんですが、その選手が持つ人間性と社会性、陸上を続ける覚悟があるかどうかです。いくらずば抜けて速く走れても、チームの輪や秩序を乱す選手はロジスティード陸上部にふさわしくありません」
またロジスティード陸上部のスタッフとして、従業員からの

応援の力を感じ、その期待に応えたいと考えている。

「ロジスティードの社業であるお客様の荷物を運ぶ、つなぐということは、駅伝でタスキをつなぐことと通じます。暑い日も寒い日も、定刻を守り、事故を起こさず物流の現場で働いている方々がいることを、陸上部が活躍することで多くの人に重ね合わせて知ってもらいたいと思います」と、スタッフとしての気構えを教えてくれた。

ひらの すすむ ●千葉県君津市出身。中央学院大学卒業後、空港グランドサービス(株)(現・株)JALグランドサービス)の実業団チームへ。2010年に廃部になるまで選手、監督などを務める。2024年4月、ロジスティード陸上部スカウト担当コーチに就任。コロナ禍以降、ヘラブナ釣りが趣味に加わった。



右／陸上部の新食堂メニューを試食する平野さん。選手の食堂が充実していることはスカウトの際のアピールポイントになると話す。



上／明るく居心地がいい新食堂。
右／調理を担当する一富士フードサービス(株)の調理師・森 淳一さん。

千葉県松戸市にあるロジスティード陸上部のクラブハウスに2026年6月、新しく選手専用の食堂がオープンした。自然光がやさしく差し込み、居間のようなソファも備えた食堂だ。

ここでは陸上部専属の管理栄養士である四條 淳子さんの指導のもと、おいしく栄養バランスに配慮したメニューが決められ、平日の朝・夕食が提供される。

食堂の運営を委託されている一富士フードサービス



ある日の夕食メニュー。牛肉たっぷりのビビンバにサバの香味焼き、中華スープ、枝豆サラダ、フルーツ。おいしくほっとする味わい。

(株)の管理栄養士・船本 茉莉子さんは「毎日の食事なので『外食』ではなく、おうちに帰ってきて食べるような、ほっとできる味付けにすることを心がけています」と話す。

また、日々の食事が楽しくなる仕掛けも考えられている。その一つが「ご当地メニュー」だ。各都道府県の郷土料理を取り入れたメニューを定期的に出している。山形県の日には「芋煮」と「だし」、秋田県は「きりたんぽ」、青森県は「イカメンチ」など。岩手県料理の際には、銀河のしずくを使用するなどお米にもこだわっている。

「選手の誕生日には、その選手からのリクエストメニューを出しています。パフェを出したりしますよ」と船本さん。選手たちからの評価は高く、食べ残しもほとんどないという。



一富士フードサービス(株)の管理栄養士・船本 茉莉子さん。「ケニアの選手がいるので、伝統食のウガリを出したこともあります」

しじょう あつこ ●ロジスティード陸上部管理栄養士。公認スポーツ栄養士。プロ野球球団専属の管理栄養士などを経て、2015年、ロジスティード陸上部の管理栄養士に。選手たちの栄養指導などを担当する。

ロジスティード陸上部専属の管理栄養士・四條 淳子さんに 新食堂のこだわりポイントなどを聞きました

- Q 新しい食堂での食事提供の概要を教えてください。
A 月曜日～金曜日、朝・夕の提供です(月曜朝は提供なし)。
- Q メニュー作りは以前と変わりましたか。
A 陸上部専用のメニュー作りができるようになりましたので、自由度はとても高くなりました。
- Q メニュー作りのポイントを教えてください。具体的にはどのように組み立てていくのですか。
A 給与栄養目標量に沿って、調理方法、味付け、彩り、練習内容、前後の献立、選手の好みなどを考慮し、使用食材の種類や量を調整して献立を組み立てていきます。
- Q 気温や練習内容を考慮してメニュー作りをされているとのことですが、どのような工夫を取り入れていますか。
A 夏季は暑さを避けるため早朝に本練習を行うことが多くあります。練習後の朝食は、喉を通りやすい麺類やスープごはんなどを取り入れて、糖質量を確保できるようにしています。
- Q 選手一人ひとりの体調や課題、好みに合わせた個別対応をどのように行っていますか。
A アレルギーがある選手に対しては、個別に指定をして食材変更をしています。減量が必要な選手には、量を調節して提供することもあります。
- Q 選手たちからの人気メニュー、リクエストの多いメニューがあれば教えてください。
A やはり「お肉料理」は人気です。選手曰く、「お肉を食べると力がでる!」そうです。
- Q 新食堂になって、選手たちの反応はいかがですか。選手たちに良い影響を与えていますか。
A 陸上部専用の食堂になったことで、リラックスして食事ができるようになりました。また、もともと残食は少なく、みんなよく食べておりましたが、陸上部専用のメニューに変わったことや対面での提供ができるようになったことも相まって、より一層残食が少なくなりました。

車両データ活用に関する技術で特許3件を取得 遠隔診断・データ一元管理・燃費可視化により事業用車両の安定運用支援

ロジスティード(株)は、事業用車両の安定運用を支援する車両データ活用技術について、新たに特許を3件取得しました。輸送事業を取り巻く環境では、脱炭素への取り組みに加えて、車両の安定運用、整備業務の効率化、燃費の把握による運用改善の重要性が高まっています。一方で、車両から取得できるデータは車種やメーカーなどによって項目や名称、

取得可否が異なるため、データの横断的な活用が課題となっています。この課題に対し、(1)車両状態を遠隔で診断する技術、(2)異なる形式・名称で取得される車両データを一元管理する技術、(3)燃費情報を取得または算出し可視化する技術について、特許を取得しました。



●遠隔診断

発明名称

遠隔診断システム、遠隔診断方法、およびプログラム

車両から取得したセンサ情報や故障コード(DTC)に基づいて、車両の状態を遠隔で診断する技術です。診断結果に整備事業者の知見を反映しながら継続的に精度を高めることができるため、より適切な車両診断や予防保全につなげることができます。



●車両データの一元管理

発明名称

車両情報管理システム、車両情報管理方法、およびプログラム

車両から取得する各種データを統一的に管理する技術です。車種やメーカー、車載端末ごとに異なる名称で取得されるデータを、名寄辞書(異なる名称や略称などで記録されたデータを、共通の名称に統一するための参照用データ)を用いて共通の管理項目に自動的に整理し、車両データの管理や活用を効率化することができます。

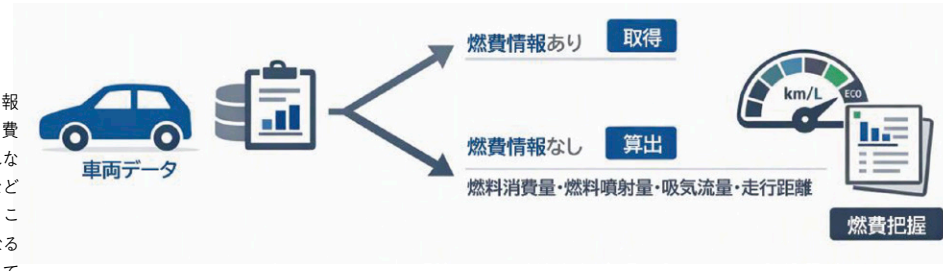


●燃費可視化

発明名称

燃費算出システム、燃費算出方法、およびプログラム

車両から取得する実際の走行データから、燃費情報を取得または算出する技術です。車両データに燃費情報が含まれる場合はその情報を取得し、含まない場合は燃料消費量、燃料噴射量、吸気流量などの情報と走行距離に基づいて燃費を算出します。これにより、車両ごとに取得できるデータ項目が異なる場合でも、取得または算出の方法を適切に選択して、燃費を正確に把握し、可視化することができます。



「QRコード」を読み取ると、ロジスティードのWebサイトから詳細がご覧になれます。「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

編集後記

物流倉庫は自動化により作業効率が向上し、作業者の負担も軽減されて快適な職場に進化しています。特集で紹介したAutonMateは、物流の現場だけでなく、私たちの身近な生活の中でも活躍できるのではないかと夢が膨らみます。たとえばスーパーでのお買い物。作りたい料理を登録すれば必要な食材コーナーに連れて行ってくれる、みたいな。余計な買い物をしなくて済むようになるかもしれません。(金田)

業務でもAIを使う機会が増え、物流現場では最新技術が次々と投入されています。そんな中でも完全に人の力が不要になることはありません。便利な技術をどう使うかを考えることが重要だと取材をとおして実感しました。富岡八幡宮例大祭では、人々が力強く自分たちの町会の御神輿を担ぎ、沿道の住民は水をかけて参加していました。時代が変わっても、伝統や人と地域とのつながり、そして情熱は変わらず続いてほしいと願います。(谷野)

優勝 第46回ゴールドコーストマラソン2026

ロジスティード陸上部の富田 峻平選手が実業団連合の派遣で初の海外レースとなるゴールドコーストハーフマラソンに出場しました。初めての海外レースに加え、早朝6時15分スタートという厳しい条件の中で、自己ベストを更新。さらに大会記録を16秒上回る快走を見せ、見事優勝を果たしました。

大会名	第46回ゴールドコーストマラソン2026
種目	ハーフマラソン
開催日	7月4日 午前6時15分スタート
開催地	オーストラリア/ゴールドコースト
結果	優勝 富田 峻平 1時間00分52秒(大会新記録・自己新記録)



Gravity Car Race/ 重力カーレース®の 最高峰「ソープボックスダービー®」 ナショナルチームの世界選手権 出場支援

ロジスティード(株)は、Gravity Car Race/重力カーレースの普及促進をめざすNPO法人日本ソープボックスダービー協会の活動を応援しています。7月に米国で開催された「第88回AASBD(オールアメリカンソープボックスダービー*)世界選手権」へのナショナルチームの出場に協賛し、社名を冠した「LOGISTEED ニッポン号」が出走しました。

*ソープボックスダービー:CO₂を全く排出しないゼロエミッションのクルマが「地球の子カラ(重力)」だけで坂道を走り、その速さを競うカーレースの総称です。1933年に米国で生まれ、大手自動車メーカーやタイヤメーカーなどをスポンサーとして、90年以上にわたり、オハイオ州アクロン市において毎年レースが開催されています。



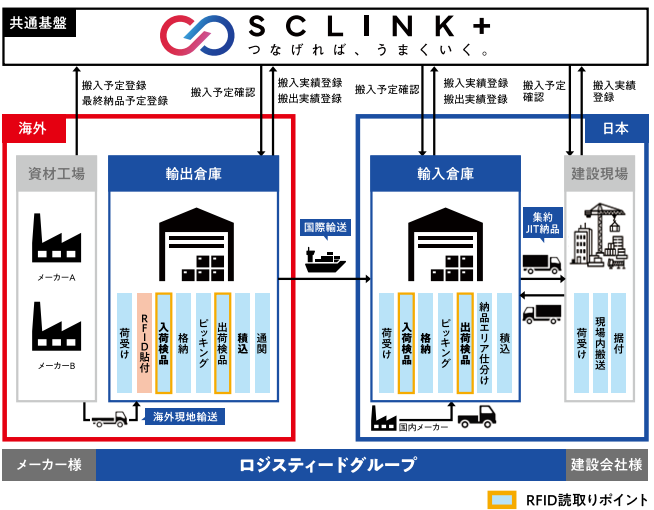
RFIDを活用した建設業向け 新サービスを開始

ロジスティード(株)は、ロジスティードグループのサプライチェーン管理ソリューション「SCLINK+(エスシーリンク)」*1にRFID*2を連携し、建設業界の課題を解決する新サービスの提供を開始しました。

このサービスは、サプライチェーン上のモノに付与されたRFIDタグ情報をSCLINK+と連携することで、調達・保管・輸送・納品・設置に至るまでの一連のプロセスをリアルタイムで可視化するものです。これにより、製品・資材の所在やステータス管理、業務進捗の把握を効率化し、お客様のサプライチェーン全体の最適化に貢献します。



*1 SCLINK+は、ロジスティードグループが提供する、発注、出荷、輸送、保管、納品など、サプライチェーンにおけるさまざまな情報をクラウドで一元管理するプラットフォームです。共通基盤で情報共有や進捗管理を行うことで、サプライチェーン全体の可視化を実現します。また、帳票や図面、画像などの各種データとメッセージを案件ごとに関連づけて管理できるため、必要な情報を一元的に参照でき、関係者間の円滑なコミュニケーションを支援します。
*2 RFID(Radio Frequency Identification):電波を利用してタグ情報を非接触で読み取る自動認識技術。



青森ねぶた祭出陣

8月2日から7日にかけて、100万人を超える観客が訪れる東北を代表する夏祭りの一つ、「青森ねぶた祭」が開催されました。

今年はロジスティード東日本(株)も参加する日立連合ねぶた委員会が見事、総合2位の知事賞、運行・跳入賞、囃子賞を受賞しました。ねぶたの題材は、北村 春一氏が制作した「吉野山 桜下の別れ」です。このねぶたは最終日に海上運行されたあと、青森市文化観光交流施設である、ねぶたの家「ワ・ラッセ」に1年間展示されます。



